

▼寄付金で購入した楽器を演奏する生徒



寄付金を活用させていただきました

東円堂出身の歌手みずき舞さんから、今年度いただいた寄付金を、町内2中学校の吹奏楽部の活動に活用させていただきました。秦荘中学校ではクラリネット、愛知中学校ではサクスをそれぞれ購入しました。

楽器を利用している生徒たちは、「新しい楽器を使うことができうれしいです。寄付いただいた楽器を大切に使いながら、日々の練習を頑張っていきたいです」と感謝の気持ちを話していました。



▼高橋さん(左)、井上さん(中央左)、小面さん(中央右)



全日本シニアソフトボール大会準優勝

10月1日から3日にかけて、シニアソフトボールチームのレイクユニオンズが、ひなた県総合運動公園広場(宮崎県宮崎市)で開催された第36回全日本シニアソフトボール大会に出場され、準優勝されました。

愛荘町では3名の方が所属され、出場された3名の選手は、「年を重ねても夢をあきらめずに目標を常に持ち続け、生涯現役でいたい」と話されました。今後もさらなるご活躍を期待しています。

全日本シニアソフトボール大会出場選手

小面 春治さん(主将)、井上 充也さん(遊撃手)、高橋 健さん(投手)

▼マンホールトイレの使用方法を説明する石沼区長



東円堂「防災訓練」

10月16日、東円堂では新型コロナウイルス感染症の影響に伴い中止になっていた防災訓練を3年振りに再開されました。

区民の皆さんは、石沼区長の指揮のもと、協力しながら「バルーン投光器」と「マンホールトイレ」の組み立て訓練を実施されました。また、愛知消防署愛知川出張所の川口所長からは、「大規模災害時は行政等による公助に限界があるため、自ら取り組む自助や地域で取り組む共助が重要となる」とお話がありました。

このように災害に備えることで地域の防災意識が高まり、有事の際にも行動できるようになります。

▼力を合わせてさつまいもを掘り起こす園児たち



さつまいも収穫体験

10月19日、JA東びわこ愛知川支店南側圃場で愛荘町農遊倶楽部会員の皆さんに協力いただきながら、町内の保育園児がさつまいも収穫体験をしました。

園児たちは、愛荘町農遊倶楽部会員の皆さんに、掘り起こすのを手伝ってもらいながら、友達とも協力してたくさんのさつまいもを掘り起こしていました。

土から掘り起こしたさつまいもを見て、「おいもがたくさんつながっているよ」と初めて土から顔を出すさつまいもの様子に、園児たちは、嬉しながらかわいさ話していました。



▼笑顔を見せる5名の剣士



守山剣友会スポーツ少年団創立50周年記念大会

10月9日、守山市民体育館(守山市)で守山剣友会スポーツ少年団創立50周年記念大会が開催されました。

愛知川剣心会からは、小学生団体戦1チーム、個人戦3名、そして、中学生団体戦1チームが出場しました。

団体戦の中学生の部では、滋賀県内15チームが出場し、愛知川剣心会からは三輪 奎太さん、田中 夢真さん、徳田 善行さんが3人制団体に出場され、優勝しました。また、個人戦の小学2年生の部では、堀内心菜さん、小学3・4年生の部では高野 葉輔さんが3位に入賞しました。

▼秦荘スポーツ少年団野球部の皆さん



秦荘スポーツ少年団野球部が県大会出場

10月16日、秦荘スポーツ少年団野球部が、秦荘スポーツセンター(軽野)で開催された新元号記念学童軟式野球大会湖東地区予選決勝に出場され、優勝されました。

当日の試合では、最終回を2-2の同点で迎えましたが、勝負どころで見事なツーランスクインズを決め、6-2で見事6年ぶりの県大会出場を勝ち取りました。

キャプテンの村木 楓芽さんは、「チーム目標の県大会出場を最後の大会で達成することができました。みんなで諦めず練習してきたよかったです」と話されました。

▼笑顔を見せる3名の剣士



奈良県川上村第20回記念剣道交流大会

10月23日、奈良県川上村立武道場(奈良県川上村)で奈良県川上村第20回記念剣道交流大会が開催されました。奈良県内から264名、奈良県外の強豪道場からも118名出場されました。

愛知川剣心会からは、個人戦で小学生3名、中学生4名、一般1名が出場し、熱戦を繰り広げました。

個人戦小学3・4年生女子の部では細江 ひかりさんが準優勝し、小学5・6年生の部では細江 葉太さんが優勝しました。また、一般男子初段以下の部では、奥西浩さんが優勝されました。

▼織物にシワをつける工程を学ぶインドの工芸士



インドの工芸士が愛荘町へ来訪

10月28日、インドで活躍されている工芸士が近江上布伝統産業会館を見学されました。10月初めに来日され、近畿圏内の各都道府県を回り、日本の伝統産業を学ばれていました。

愛荘町では、近江上布の紹介やお互いの国の伝統工芸について意見交換を行うとともに、実際に近江上布に触れていただくことで、その良さを実感いただきました。

工芸士の方々は「これから技術や人材、情報などを交換して、日本とインドがより仲良くなって、いつながりを作っていきたい」と話されていました。